

東京工業大学

学生会員 永井 護

○(株) 日建設計

正員 佐藤源治

同

池田英治

1. はじめに

余暇に対する認識は近年急速に高まり、我々をとり巻く生活空間の中に余暇のためのスペースを確保して行うとする姿勢は、官公庁・民間に、共に芽ばえてきたが、問題点ばかりを含みながらも土地利用が盛んになってきている既成の都市内においては、その実体なかなか上がらない現状である。この理由としては、再開発の難かしさ、資金準備の困難さ、細分化された個人所有地等々諸々の問題点も上げられるが、“ゆとり”のない我国の都市に、限られた土地と資金で何から先に整備して行くかという grade の問題になると、どうしても余暇空間は後にとり残されて手がつけられずに終わってしまう場合が多いように思われる。

ここに述べる小論は、このような“重要ではあるが余暇空間だけでは弱い”という現実を認識し、他の土地利用の中の一部に、あるいは他の土地利用にあわせて余暇空間を整備して行く一方法を、都市(生活空間)内自身近に考えられる題材を中心にまとめてみたものである。

2. 複合的土地利用のまとめ

“情緒”、“やすらぎ”など人間に心をなごませる要素が余暇空間には第一義と考えられるから、そこには“緑”は不可欠のものとなる。又“水”の存在も重要である。

このような観点から、都市内あるいは新住宅都市内等の生活空間で緑と水とを創造して行く、又は持合せている土地利用も余暇空間から眺めて見れば、右の表のような目的を複合させた土地利用の可能性が考えられる。

都市の環境悪化の防止策として緩衝緑地の設置を方々に見聞する。これらは、高速道路・鉄道・空港・港湾・工場・ゴミ処理場・汚水処理場等であり、余暇空間と複合させた土地利用が可能となる。新たに土地利用を決定して行く新住宅都市の計画の場合は自由度が高く、保存緑地・法面・遊水池・

土地 利 用		期待される余暇空間機能	目的とする機能
緩衝緑地	高速道路沿緑地	公園(運動・遊戯)	公害防止 (騒音・振動・修景 CO)
	鉄道沿緑地	“ ”	“ (騒音・振動・修景)
	空港周辺緑地	レクリエーションスペース	“ (騒音)
	港湾(埠頭)周辺緑地	公 園	“ (修景)
	工場周辺緑地	公園レクリエーションスペース	“ (騒音・振動・修景等)
	ゴミ処理場周辺	温水プール・植物園 (熱の利用)	“ (火災・修景)
新住宅地	団地周辺保存緑地	オープンスペース	自然保存・防災
	造成法面(斜面)	“コイ”・活動のスロープ	——
	遊水池	レクリエーション水面	防災(洪水調節)
	生活道(みち)	人のたまり	交通
その他	駐車場	小児の遊び場(昼)	駐主車(夜)
	河川敷	公園(運動・ツリ・釣り等)	治水
	アースダム	レクリエーション水面 (水2ダム)	利水・治水
	駐車場(親地・展示場等)	オープンスペース(アスファルト)	駐主車(シーズン)
	都市内の田畑	レクリエーションスペース	収穫
	牧 場	“ ”	放 牧

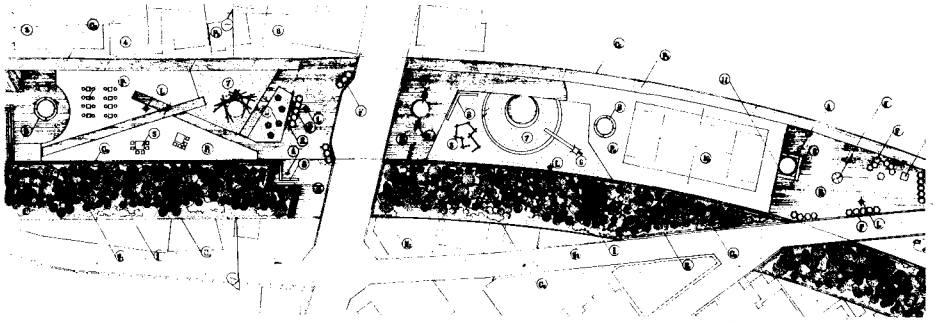
生活道路(みち)・駐車場等の積極的な利用を可能とする。又、その他として、河川敷・アースダム・野水池・駐車場・ショッピングモール・都市内の田畑・牧場の利用等が考えられる。

これらの土地利用は、本来目的とする機能を持合せているため、余暇空間に掛かる資金面での負担は軽減されるよう。

3. 具体的事例.

紙面の都合上、今回は都市内高速道路の緩衝緑地・工場周辺の緩衝緑地内に計画した余暇空間を事例として上げてみた。発表当日は、この他の例もスライドを使用して御紹介したい。

高速道路(高架)緩衝緑地内の余暇空間



工場周辺緩衝緑地内の余暇空間



4. おわりに

狭い国土を有効に利用し、快適な生活環境を演出して行こうとする時には、単目的の土地利用に止めることなく、2, 3の目的をも満足させられるような土地の利用法を積極的に考えて行く必要がある。今回は余暇空間から見た複合可能な土地利用を探索してみたが、今後他の土地利用についてもこのような追跡を試みてみたい。